

だい かいさつぼろしじりつしえんきょうぎかい
第36回札幌市自立支援協議会

ぎ じ ろく
議 事 録

にちじ ねん がつ にち きん ごご じ ふんかいかい
日時：2021年6月11日（金）午後6時30分開会

ばしょ かいさい しよう
場所：オンライン開催（Zoom使用）

1. 開 会

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） それでは、時間となりましたので、第36回札幌市自立支援協議会を開催いたします。

初めに、事務局より皆様に2点お願いがございます。

本日はオンライン開催となりますので、各議題で報告をいただいている間、ほかの音が入ることを防ぐため、お聞きになっている方はマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、会議中は、カメラをオンにし、皆様のお顔が見える状態で進めてまいりたいと思いますので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは次に、札幌市障がい保健福祉部において人事異動がありましたので、簡単に紹介いたします。

企画調整担当課長に着任いたしました笹谷です。

○事務局（笹谷企画調整担当課長） 今年4月に札幌市保健福祉局 障がい福祉部 障がい福祉課企画調整担当課長に着任いたしました笹谷でございます。

本日は、お忙しいところ、全体会にご参加いただき、感謝申し上げます。

自立支援協議会の全体会としては初のオンライン開催となります。皆様方におかれましては、それぞれの議題につきまして活発なご意見をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） それでは次に、私ですが、就労・相談支援担当係長の渡辺と申します。

本日は、冒頭の事務局説明と閉会部分の司会をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員の出席状況ですが、年間活動報告書の248ページ、最後のページになりますけれども、委員名簿が載っております。今年度の委員の交代や欠席などによる代理出席により、全体会に初めて参加される方が5名いらっしゃいますので、ご紹介したいと思います。

まず、お配りしている名簿の上から2番目、札幌市社会福祉協議会自立支援課長であった大下委員の後任として、札幌市社会福祉協議会自立支援課長の灰野委員です。

続いて、名簿には反映できておりませんが、厚別区地域部会長が加藤委員から富田様へ変更になっております。委員の委嘱手続の関係上、富田様は、今回、代理出席という形になります。前代表の加藤様はお隣にいらっしゃるのとことですので、加藤様はオブザーバーとして参加いただきます。

次に、手稲区地域部会長の西村様のご欠席のため、代理出席としまして、相談室こころていねの大勝様、相談室ていねの津村様にご出席いただいております。

また、事前にメールでもお知らせいたしました。永井会長が6月末でご退任となります。学識経験者の後任といたしまして、北海道医療大学の近藤尚也先生に7月から委員に就任いただく予定となっております。

最後に、まちづくりサポーターの代表でありました鈴木委員が5月末で代表を退任し、同時に自立支援協議会の委員を退任されました。後任の代表が決まり次第、新たな委員としてご参加いただく予定です。

それから、本日は、北海道難病連の増田委員が所用によりご欠席となっております。

よろしければ、ただいまご紹介しました方々に、簡単に結構ですので、ご挨拶をいただければと思います。

灰野委員、よろしくお願いいいたします。

○灰野委員 先ほどご紹介いただいたとおり、4月1日から札幌市社協の自立支援課長に着任した灰野と申します。

今後、この会議に参加させていただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いいいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） よろしくお願いいいたします。

次に、富田様、よろしくお願いいいたします。

○富田委員（代理） 厚別区地域部会の富田でございます。

現在の所属は、厚別区上野幌にございます社会福祉法人札幌報恩会の通所事業の管理者をしております。

本日は、加藤会長の代理での出席です。よろしくお願いいいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） よろしくお願いいいたします。

次に、大勝様、よろしくお願いいいたします。

○大勝委員（代理） 本日、代理出席をさせていただきます社会福祉法人溪仁会相談室こころていねで管理者をしております大勝と申します。よろしくお願いいいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） よろしくお願いいいたします。

次に、津村様、よろしくお願いいいたします。

○津村委員（代理） 同じく、手稲区地域部会副部会長、相談室ていねの津村と申します。

よろしくお願いいいたします。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） よろしくお願いいいたします。

そのほかに、本日、議事録作成のため、速記事務所の方が参加していることをご連絡いたします。

次に、資料の確認をしたいと思います。

まず、次第になります。

一つ目として、令和2年度札幌市自立支援協議会年間活動報告書という冊子が1部です。

二つ目として、札幌市自立支援協議会各区地域部会からのお知らせというA4判1枚表裏

の資料となります。三つ目として、札幌市附属機関等の設置及び運営に関する要綱、A4

判2枚表裏の資料となります。四つ目として、障がい者によるまちづくりサポーター制度

第7期活動報告書という冊子が1部あります。五つ目として、障がい福祉計画（第6期）・

障がい児福祉計画（第2期）概要というA3判1枚表裏の資料になります。計画の本書に

つきましては、以前、担当係が送付をしているところがございます。お手元に、障がい福祉計画（第6期）・障がい児福祉計画（第2期）の冊子のほうをご準備いただければと思います。六つ目として、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの主な活動報告と令和3年度方針というA4判1枚表裏の資料となります。

資料は以上です。

なお、この協議会については、議事録を作成し、後日、札幌市のホームページ上に公開する予定となっております。

ご発言の際には、情報保障の観点から、所属と名前を述べられてから、なるべくゆっくりにご発言ください。

また、差し支えなければ、オンライン開催の様子を写真に撮らせていただき、開催時の様子として札幌市役所のホームページとワン・オールのホームページに掲載させていただければと考えております。あらかじめ、そういった写真には写りたくないという方がいらっしゃいましたら、挙手で申し出てください。

皆さん、よろしいようです。では、よろしくお願いいたします。

それから、本日は、オンライン会議ということで、一般の傍聴者の方につきまして、市のホームページでご案内をしておりましたけれども、本日、傍聴される方はいらっしゃらないことをご報告いたします。

それでは、議題に移りたいと思います。

ここからは、永井会長に議事進行をお願いいたします。

2. 議 事

○永井会長 皆さん、こんばんは。

ただいまご紹介いただきました会長の永井です。

このようにZoomという形での全体会となり、残念ではありますが、私が議事を進行させていただきますのは今日が最後になります。今日も、この遅い時間から2時間程度という長い時間となりますが、活発なご意見等をいただきましたら幸いです。

よろしくお願い致します。

では、早速ですが、次第に沿って報告・協議を進めていきたいと思っております。

各報告・協議ごとにご意見、ご質問を伺いますので、まとめて報告等をいただいた後にご意見を伺う形になりますが、どうぞご遠慮なくご発言いただければと思います。

発言いただくときには、そのままマイクをオンにしてお声を上げていただいて構いません。ちょっと手を挙げていただいても気がつかない可能性があるため、マイクをオンにしてお声を上げてください。

委員の皆様におかれましては、今後、部会プロジェクトの活動を続けていくために、積極的なご意見をお願いしたいと思います。

それでは、早速、各区の地域部会から報告をお願いしたいと思います。

画面共有で報告書を出していただきますが、お手元に報告書をお持ちかと思っておりますので、見やすいほうをご覧いただきながら報告をお聞きください。

毎回、申し訳ないのですが、時間が限られておりますので、各部会は3分を目安としてご報告をお願いいたします。

それでは、中央区地域部会の妻倉委員からお願いいたします。

○妻倉委員 中央区地域部会の妻倉です。よろしくお願い申し上げます。

令和2年度の活動内容については、報告書のとおりですが、地域部会の運営で工夫していることとして、令和2年度はコロナ禍という状況にあり、地域部会の活動としては、困り事のアンケートやコロナのQ&Aを作成しました。

今年度、令和3年度は、何とか活動したいということでリモートでの定例会を準備していたところなのですが、残念ながら地域部会の活動自体をお休みしなければいけないということで、まだ活動に至っていません。

第1回目の定例会としては、困り事のグループワークというものを考えておりました。以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

続きまして、北区地域部会の和田委員からお願いいたします。

○和田委員 北区地域部会の和田でございます。

報告の内容としましては、この書類のとおりですが、いつもより寂しい年度となっております。一応、令和2年度からZoomを使つての事務局会議をできる体制になってきているのですが、令和3年度に入りまして、事務局会議を1回開いて、コロナによりこんな状況になってしまった中で、とりあえず事務局会議を1回開いたほか、子ども部会、相談支援部会等がなかなか活動できていない中で、このコロナ禍が何とかなっていただけないかという現状でございます。

ただ、そんなこと言ってもしょうがないので、こういう状況の中でも何とかできる方法を、皆様方の活動を見ながら考えたいと思っております。

北区からは以上でございます。

○永井会長 ありがとうございます。

それぞれ本当にご苦労がある様子がうかがえます。

続きまして、東区地域部会からお願いいたします。

○小谷副会長 東区地域部会の小谷と申します。

東区地域部会は、やはりコロナ禍により、集まつの会議がなかなかできなかったのですが、この全体会と同じように、オンラインを使つてZoomで事務局会議、運営会議等を行っています。

工夫していることは、毎月、事務局会議、運営会議を開催し、密度の濃い検討・意見交換を行っています。各種会議をオンラインにて開催しています。

コロナ禍でも情報交換や交流の機会を減らさないように、オンラインでの交流イベント

を企画しており、この間、終わりました。集まって、グループ分けをして行いました。

あとは、会報誌「タピネット」ですが、積極的に活用し、各種情報提供等を行っています。

やはり、新型コロナウイルス感染症拡大のため、活動の一部を見直したり中止したりしなければなりませんでした。

以上です。

○永井会長 小谷委員、体調不良のところ、ありがとうございます。

○小谷委員 病院の中なので、パジャマ姿で申し訳ありません。

○永井会長 とんでもないです。ありがとうございます。

続きまして、白石区地域部会からお願いいたします。

○斎藤委員 白石区地域部会の斎藤です。お疲れさまです。

令和2年度は、コロナの影響で、ほとんど活動ができない状況でした。

その中でも、専門部会の一つである子ども部会は、下半期に3回の研修会を開催しております。内容については、そこに記載したとおりです。

今年度の活動予定については、子ども部会で既に8月に性教育、11月に児童虐待というテーマで研修を行う予定になっております。

白石区では、詩梨ちゃんの事件の後、毎年、児童虐待を未然に防止するためというテーマで研修を開催しておりますけれども、今年も11月に開催する予定です。

工夫していることや困ったことにつきましては、そこに記載したとおりですが、Zoomの活用による会議、研修を模索しておりますが、区役所にZoom環境が整備されておられませんので、今の時点で参加事業所の善意に頼ってやるのか、どうするのかというところで足踏みをしている状態です。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

確かに、通信環境については、いろいろと工夫が必要などころがあるかと思えます。また情報共有をできればと思えます。

続きまして、厚別区地域部会からお願いいたします。

○加藤オブザーバー 厚別区です。

このたび、部会内では富田さんに部会長を交代しているのですが、私のご連絡が遅くなってしまったため、今日は富田さんに代理の形で参加していただくことになってしまって、申し訳ありませんでした。

私は、6年ほど、厚別区の部会長をさせていただいていたようですが、皆様には本当にいろいろお世話になりました。地域部会連絡会の皆さんにも、本当に楽しい時間をたくさん過ごさせていただいて、たくさん勉強をさせていただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ご挨拶は以上ですけれども、引き続き、私から報告をさせていただきます。

厚別区地域部会も、皆さんがおっしゃっていただきましたとおり、コロナ対策のためにオンラインにより毎月1回の幹事会を開催しています。そのほかに、必要に応じて役員会を、これもオンラインで開催しています。

また、総会も、オンラインにより、構成員の皆さんが参加して行いましたが、総会と同時に研修会も開催し、副部長である精神科の藤田先生に講義をしていただいています。コロナ禍におけるスタッフのメンタルヘルスについて講義をいただきました。

具体的に何ができるかというところはまだ模索中ですけれども、極力、コロナの感染予防をしながらやっていけることとして、地域部会をもう一度しっかり紹介しようということで、チラシ等の作成や、ホームページにきちんと載せて知ってもらおうということに力を入れていこうという話し合いなどを行っています。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

加藤委員は今回で退任ということで、残念ですが、次の委員の方にも同席いただいております。ありがとうございます。

部会の取組としては、スタッフのメンタルヘルスというのは、コロナ禍で大きな動きがあるところかと思えますけれども、貴重な取組かと思いました。

それでは、豊平区地域部会からお願いたします。

○小熊委員 豊平区地域部会部会長の小熊と申します。

昨年の4月から、それまで務められた中村さんに代わり部会長に新しく就任しました。豊平区地域部会の昨年度の活動としては、運営委員会を6回開催しておりまして、参集しての開催が1回とリモートが5回ということで、例年の半分ぐらいの開催でした。

あとは、広報「アップルネットワーク」は、例年どおり4回発行してありまして、FMアップルには2回出演しております。

昨年の4月の総会のときには、リモート環境の準備などが整わず、総会が開けなかったということで、メールでのやり取りで終わってしまったのですが、今年度については、リモートの形で初めて大人数が集まる例会が予定されていて、できました。

特に、活動としては、前年度は内容がちょっと薄かったのですが、コロナ禍においての状況、各事業所の状況をeメールのやり取りでまとめて情報共有するという活動をしたり、できることを探して工夫していったということです。

工夫している点は、リモート活用の拡大に取り組んでいるということと、困っている点は、リモート環境の整っていない事業所さんが今後どうつながっていかれるかということです。また、札幌市と豊平区のリモート環境がまだ十分に構築されていないので、そこは何とかならないかと思っていたのですが、豊平区は、今年の4月にリモート環境が整いましたので、これからいろいろ活発に活動したいと思っています。

あとは、運営委員の定着です。コロナもあって、各委員、忙しくて、なかなか参加もできずに離れていくというか、関わりが薄くなっていくということがあったので、そこを困

っている点として挙げました。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

リモート環境の有無が参加のしやすさとしにくさをつくるみたいなのも出てきてしまうと思うので、課題ではあると思いますが、徐々に環境が構築されてきている面もあるということです。ありがとうございました。

続きまして、清田区地域部会からお願いいたします。

○栗虫委員 清田区地域部会の栗虫でございます。

皆さん、どうもご無沙汰しております、なかなか会えない状況ではありますが、よろしくお願ひします。

清田区地域部会の令和2年度の活動実績としましては、コロナ禍の中、なかなかできなかったのですが、運営委員会を3回開催しております。今までは小さい会場で行っていたのですが、区役所内の広い会場を使用し、密にならないよう換気に心がけ、時間を短縮して行いました。

また、清田区の活動のメインである研修会も一切できず、逆に各事業所にアンケートをお渡ししまして、コロナ禍で困っていることや今後の検証の開催方法などについて、各事業所に周知した次第です。

また、忘れてはならない防災マップの更新を行いまして、各事業所へ配付しております。

あとは、部会運営で困っていることにつきまして、各地域部会の皆さんから同じようなお話が出るのですが、運営会議並びに研修会をウェブ会議で行えないかということです。

今、各事業所の環境等を調査して、実現へと向かう予定をしておりますが、今日、私自身、初めてZoomの会議に参加させていただいて、そんなに難しいことではないかなという感じがいたしました。

これを機に、今日も清田区地域委員会のメンバーが3名参加しておりますので、早速、この結果を運営委員会に上げて、ウェブ会議を早々に実行できるよう進めていきたいと思ひます。

以上でございます。

○永井会長 ありがとうございます。

確かに、Zoomも慣れてしまえばというところかもしれませんが、まずは前提となる環境整備というところで、アンケートなども工夫されているのは、なるほどと思ひました。

続きまして、南区地域部会からお願いいたします。

○山田委員 南区地域部会の山田です。よろしくお願ひします。

南区地域部会の令和2年度の活動実績ですが、感染予防ということで、部会の活動を休止といたしました。

その上で、各専門部会で子ども部会だけはアンケートを企画して、どのようなアンケート

トを取るかというのをメール等々でやり取りしていましたが、新型コロナウイルスの感染が広がってきたタイミングとちょうど重なってしまって、そのまま活動休止となっています。

書いてあるとおり、令和3年度は、コロナ禍がもう少し続くというところで、南区地域部会としても、このような中でどういう活動ができるか、Zoom等を使って話し合いをしていきたいということになっています。

工夫していること、困っていることについては、書いてあるとおりです。皆さんと同じように、やはりZoomとリモート環境がそれぞれ整っている、整っていないの差があるので、その辺りをどのように整備していくか、そういうところが一番大きな課題となっていると考えています。

南区地域部会からは以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

コロナの影響が大変大きかった様子がうかがえます。

では、続いて、西区地域部会からお願いします。

○前田委員 西区地域部会の前田です。よろしくお願ひいたします。

西区地域部会の令和2年度の活動ですけれども、皆さんのところと同じで、事務局会議は、上半期は全てコロナ対応ということで中止にしまして、下半期のコロナが少し落ち着いた頃合いで、9月に、一応、参集した形の会議をしまして、その後、3月にはまた感染が拡大してきておりましたので、Zoomを使用して事務局会議をしております。

ただ、事務局会議の回数が少なかったので、やれたことは限られました。西区内の各事業所から、コロナウイルスの対策で困っていることや、何かいいアイデアなどをいただけないかということで、アンケートを取って、メール等で出していただいて、それは内容を集約してまた皆さんに周知しているのですけれども、皆さんの中では、会えないために情報交換がなかなかできないということで、今後もそこは考えなければならぬところかと思ひます。

令和3年度の活動予定も、各会議や構成員との交流会もできるだけオンラインでできるようにお思ひているのですが、西区の各事業所でオンライン環境が整っているのか、そうではないのかということまで調べることはできていません。今後、コロナが終わっても、オンラインでの会議というのは福祉の業界でも必要なことかと思ひますので、それに慣れるために、5月の末に参加できる構成員での全体会を予定してはいたのですが、緊急事態宣言等があつて、各事業所もコロナの感染予防で大変でしたので、中止になっています。

西区の地域部会としては、オンラインを使用して、このような形で皆さんと話しができて、グループワークができて、年度の終わりには誰か講師を呼んで研修会ができるところまで持っていければいいかなと思ひています。

西区地域部会からは以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

こういう経験の中で、オンラインを新たなツールとして今後にもつなげていこうということが伝わりました。

それでは、手稲区地域部会からお願いします。

○津村委員（代理） 手稲区地域部会の津村です。よろしくお願いします。

前年度は、皆さんからのご報告にもあるとおり、コロナの関係で、前半はほぼ活動中止になりまして、後半くらいから、オンラインでZoomを使って各委員会や事務局会議などを開催するようになりました。

前年度は委員や事務局中心の集まりしかできていなかったのですが、今年度は、手稲区内の福祉事業所の皆さんともZoom等で交流会などをやっていければということで、まずは各事業所にオンラインでZoomができるような環境があるのかどうかを調査していくところから始める予定になっています。

困っていることとしては、今、大きく分けて、就労グループ、子どもグループ、まち課題グループという三つに分けてやっています。就労と子どものほうは活動が大分盛り上がってきているのですが、まち課題グループは、テーマが膨大過ぎるということもありまして、人数がなかなか集まっていない現状があるので、どうしたら人を集めていけるかということ今年度は模索していくような形になっております。

手稲区からは以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

こちら、コロナ禍の中で、制限がある中、できるところに取り組んでということかと思っております。ありがとうございます。

それでは、以上が10区の地域部会からの報告になりますが、引き続き、地域部会連絡会からもお願いいたします。

○和田委員 北区地域部会の和田です。

地域部会連絡会について報告いたしますが、特に報告書をご覧のとおり、コロナ禍の中で活動はあまりできておりません。今、地域部会連絡会の必要性を感じるころもありますので、また活発に活動していきたいと思っております。よろしくお願いします。

以上でございます。

○永井会長 ありがとうございます。

続いて、専門部会からもお願いしたいと思います。

相談支援部会からお願いいたします。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。よろしくお願いします。

相談支援部会は、定例会、事務局会議、エリア会議の3層構造になっております。

割と早い段階で会議の形式を书面会議とリモート会議に変えまして、回数は減らすことのないようにということで、コロナの感染対策をして実施してきました。

相談支援部会の活動の中に、課題調べシートを提出して課題を共有していくという取組

ひとつあるのですけれども、その中で相談支援体制に関わるような課題が多く見られました。

今年度の取組にも係ってくるのですけれども、相談支援体制を構築していくための検討チームをつくって、今後、札幌市とともに相談支援体制をつくっていくことになっております。

令和2年度の活動としては、16の派遣会議がありまして、参加することになっていたのですけれども、ほとんどがコロナによって会議を中止しているような状況でした。

また、地域支援員の配置業務ということで、10区10相談事業所に配置されていて、それを相談支援部会に位置づけて活動しております。

地域支援というのは、コロナ禍で非常に相性が悪い事業にはなっているのですけれども、それぞれの事業所が毎月活動を報告し合うということが刺激にもなっておりまして、それぞれ工夫した取組ができていたと思っております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

本当に、今だからこそ必要とされる部分と、今だから制約される部分がある中で、16も派遣会議があつて大変かと思っておりますが、ありがとうございます。

続きまして、就労支援推進部会からお願いいたします。

○重泉委員 就労支援推進部会です。

令和2年度は、全てオンラインで運営委員会や事業提案を開催しております。

運営委員会は2回、事業提案チーム1回、それから、教育委員会の会計年度任用職員募集説明会も10月7日にオンラインで開催しております。

また、おがるとの共催の研修です。

あとは、B型調査研究の実施をしております。

いずれも、全てZoomとオンラインで開催しております。

令和3年度につきましては、この間、6月4日に定例会が終わりました。99名の参加があつたのですけれども、実際に参加されたのは、事務局というか、運営委員を入れて88名です。

タイトルはコロナ禍の就労支援ということで、埼玉県と福岡県の方たちにそれぞれ報告をしていただいて、グループワークをしています。

それから、各チーム会議ということで、事業提案、研修、広報、教育との連携会議、各種研修会を実施していく予定と、令和3年度はなっております。

あとは、ここに記載されていないのですけれども、札幌市の職場体験事業の協力ということで、構成員の方たちに実習先を情報提供して、その活動を行っています。

ただ、コロナ禍で、緊急事態宣言もあつたりということで、今もそうですが、実習をちよつとご遠慮されている会社が多くなっている状況です。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

こちら、制約がある中で、逆にオンラインで遠方とつながれるというような予算も節約になる工夫が行われているのだと思いました。

それでは、子ども部会からお願いいたします。

○北川委員 子ども部会も、コロナ禍のため、会議がなかなか開けませんでした。ですから、書面会議と、3月25日にコロナ禍における不安を持つ人へのケアということで、多くの児童精神科医の上田先生を講師に研修会を行いました。

札幌市子ども・子育て会議は書面だったのですけれども、児童福祉審議会のほうは、第2児相のこととか、子ども未来局のほうの計画とか、虐待の検証報告などがありましたので、定期的にお会いしての会議の参加となっています。

令和3年度になってからは、Zoomなどで事務局運営会議をやろうと思っていたのですが、事務局でも4月、5月がコロナ禍の感染拡大の対応に追われまして、開催できる状況ではなかったため、今後、Zoom等でまだワクチン接種等も難しいようなので、進めていきたいと思っております。

何件か障がい児通所支援の職員向けにワクチン接種はできないだろうかと、札幌市の保育士さんとか幼稚園の先生は可能になったということですが、そういう問合せが来ているので、少し子ども部会としても対応していきたいと考えております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

ワクチン接種への対応ということも、この間、動きがある分だけ、みんなの関心が集まっているところかと思っております。また、昨年度も、制約のある中、書面会議も活発にやり、必要があれば対面も行っているという工夫があったことが分かりました。

最後に、専門部会連絡会からお願いします。

○北川委員 専門部会連絡会も、コロナウイルスの感染防止のために活動を見合せたため、昨年度、実績はなかったです。今年度は、また計画していきたいと思っております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

以上が、10区の地域部会と地域部会連絡会、それから3専門部会からの報告でした。

それでは、コロナ禍ということで、共通した課題、困り事というのが見られ、その中でもそれぞれ独自に工夫というところもあったかと思っておりますので、ご質問をしたいというのも含めて、何かありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

皆様は既に情報共有されているかもしれませんが、私から、白石区地域部会の研修について、対面と、それからユーチューブ配信両方でということ、すごいなと思ったのですが、これは、部会としてユーチューブのチャンネルとかを確保してという形で進めているのでしょうか。

○齋藤委員 白石区地域部会の齋藤です。

これは、ビデオ撮影とユーチューブの配信は、白石区内の就労継続A型事業所のほうで、そういうことをやっているところにボランティアでお願いをしてやっていただきました。

アンケート結果は非常に好評で、ぜひ今後もユーチューブ配信の研修をやってほしいというアンケートがたくさん寄せられました。

今年度もその形態でやりたいのですが、なぜ集合対面にこだわっているかというところ、講師の方が、目の前に受講する方が少人数でもいたほうが力が入るといふことなので、感染対策を徹底しながら、ごくごく少人数の参加者に参加していただいて、実際に対面集合研修をやっている状況です。

基本的に、今年度の下半期はその形態で何本かの研修をやりたいというふうに計画しております。

○永井会長 ありがとうございます。

なるほどと思いました。ユーチューブは得意な事業所をお願いしてということですね。

あとは、確かに、目の前に受講生がいなくて力が入らないので何人かというのは、私も今はZoom授業なので、よく分かります。そんなことも、今後も研修、時間を自由に受けられるということが、きっとユーチューブ配信は便利かと思うので、お忙しい皆様には一つ利点があるところかなと思いました。

ほかにはいかがでしょうか。

ほかの部会で行っている工夫などについて、もうちょっと聞いてみたいということがあればお願いします。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 それぞれ各部会等で実施しているアンケートの結果も気になるころではあるかと思うのですが、今後、地域部会連絡会などで共有されていくと思います。

それでは、地域部会、専門部会の報告を一旦終えて、次に、運営会議及び各プロジェクトチームからの報告に移りたいと思います。

早速、運営会議の私から報告させていただきます。

運営会議も、コロナ禍ということで、活動に制約がありまして、書面会議もありました。8月には一度、委員の改選もありましたので、任期の確認などを含めて、集まって確認合うことができました。

こうした中でも、終了するプロジェクトチームもありまして、終了報告と引継ぎ先の検討ということで運営会議に議論を求められる点もありまして、3月と5月にはZoomで会議をさせていただいています。

その終了するプロジェクトなどの引継ぎとも関係しているのですが、重複障がいに関するプロジェクトチームの終了を受けて、ワーキングチームが残された課題の取組について、どのように自立支援協議会の中に位置づけていくかということを検討していただきましたが、このことについて運営会議でも話し合い、結果として、今後、重症心

身障がい児者、重度知的障がい、強度行動障がいのある方たちについて、本人や周りで困っていることについて、まず、各地域部会及び専門部会から課題抽出を行っているということになりました。これは、重度心身障がいに限らず、様々に地域生活をする中で重い障がいを抱えている方が特別に困り感を持っている場合があるだろうと想定しながら、具体的な課題の抽出まで今は行っていないので、まずは各部会からボトムアップで課題を吸い上げた上で、今後、自立支援協議会でプロジェクトなり何なりの対応を考えていこうという方針です。

ほかにも、移動課題、住まいに関するプロジェクトチームの終了ということもありまして、住まいに関するプロジェクトチームについては相談支援部会に引き継いでいただくことになりましたが、移動に関するプロジェクトチームは、後で報告もしますが、残された課題の引継ぎについては、今後の検討課題として残っております。

運営会議の報告は以上です。

続きまして、ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームからお願いします。

○小谷副会長 小谷です。

ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームですが、昨年9月に報告書を提出しまして、終了しています。

先ほど、厚別地域部会でヘルパーのメンタルヘルスについて行っていただけたということで、私たちがやってほしいことを各地域部会でやっていただけるというのはとてもうれしいと思いました。

今後は、もう終了したのですが、各地域部会、また、運営会議の中で、ヘルパーの人材不足とか技術向上は、最悪、最悪、最悪の状態が続いています。どうにかして、特に障がいを持っている方たちにもヘルパーは必要なのだということを、これからも声を上げながら、各地域部会でもお願いしていきたいと思えます。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

まさしくエッセンシャルワーカーということなのだと思うのですが、ご苦労も多い中、人材不足が平常時からあるところ、このような緊急時になおということかと思えます。プロジェクトは終了しておりますが、今後、また各方面で引き継いでいただければというところです。

続きまして、住まいに関するプロジェクトチームについてご報告をお願いします。

○妻倉委員 妻倉です。よろしくお願ひいたします。

住まいに関するプロジェクトも、有期限ということで、目安の3年間、活動してまいりましたので、ここで一旦終了とさせていただきます。

今後についてですが、課題の引継ぎですね。自立支援協議会と居住支援協議会の連携の課題については、相談支援部会に引継ぎをさせていただきたいと思えます。

また、「一人暮らしガイドブック」については、全体会といますか、運営会議のほう

に引継ぎをさせていただきたいです。

そして、その他の課題についても、運営会議のほうに引継ぎをさせていただきたいと思
いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

有期の中で具体的な成果が幾つもあったプロジェクトかと思います。その成果も含めて、
今、引継ぎということをおっしゃっていただきましたので、今後、運営会議等でご対応を
お願いできればと思います。

続きまして、身体障がい者・知的障がい者・地域生活移行推進プロジェクトチームにつ
いて、お願いいたします。

報告書は78ページです。

○山田委員 山田から報告させていただきます。

活動の概要ですが、プロジェクトチームで、主に地域生活支援拠点の整備のための話合
いを中心に行ってきました。

その結果、令和2年度末に地域生活支援拠点が設置されたということで、今後、具体的
にその中身の緊急受入先のコーディネーターとか、そういった運用等々の話合いが進んで
いくものと思われま。

一方で、令和2年度末でこのプロジェクトチームが終了とはなっていますけれども、
地域生活支援拠点についての検討や検証をする場が必要ではないかという話が出てい
ると、知的障がい者、身体障がい者の方々に対しての地域移行に関する課題がそもそも具体的
に検討できてはいないのではないかということで、今後、その課題についてどのように検討
していくかということが課題として残っています。

プロジェクトチームの報告としては以上です。

○永井会長 今言っていたのとおり、もともと身体・知的の方の地域移行のテーマで
発足したプロジェクトに地域生活支援拠点の検討をお願いしたので、一旦、そこで終了に
なってしまったというところかと思ひます。こちら、成果と課題を運営会議のほうでど
う引き継ぐか、協議していただければと思います。ありがとうございます。

続きまして、移動に関するプロジェクトチームの報告です。

報告書は84ページとなっています。

移動に関するプロジェクトチームは、令和2年度の9月末終了でしたので、昨年度の
中間報告の中でも最終報告書を報告させていただいた形です。

障がい種別ごとに困り感や工夫についてアンケート調査をさせていただき、そこから提言
をまとめたという内容でした。

そして、昨年10月には、福祉のまちづくり推進会議のほうで、小谷副会長と山本委員
から報告を行うことができ、この点、このプロジェクトが当初の目的としておりました他
部署、他機関との連携ということの一つの足がかりが得られたところかと思ひます。

今回、全体会の報告書にはプロジェクトの最終報告書は載っていないのですが、先ほど札幌市の斉藤さんに確認しましたところ、この報告書をホームページに掲載する際には、併せてプロジェクトチームの最終報告書を掲載いただけるということです。今後、各方面で移動に関する困り事や工夫について周知をするときに結果を利用していただければと思いますし、これも残された課題が今後どのように解決されていくかということを検証したり振り返る場所を、引き続き運営会議や自立支援協議会の中に持っていただきたいと思っておりますので、今後も検討をよろしくお願いいたします。

それでは、プロジェクトチームも数が大分少なくなったという感じですが、全てのプロジェクトチームの報告が終わりましたので、ご意見やご質問をお願いしたいと思います。○大館委員 札幌市自閉症・発達障害支援センターおがるの大館と申します。よろしくお願いたします。

先ほど、永井会長から、運営会議の中で重度知的障がいとか強度行動障がいがある方たちについての課題の取組をする場を検討するとおっしゃっていただいたことについてですが、強度行動障がいのある方々は、在宅ケースの場合、ご家族がギブアップしてもなかなか受入先がないとか、このコロナ禍で特に、ショートステイとかヘルパーを使って何とかかんとかやってきたのだけれども、利用が制限されてすごく困っていらっしゃるというご家族、ご本人さんたちがたくさんいらっしゃるので、ぜひぜひ自立支援協議会の中でこのような検討の場を持っていただければと思います。

私達も協力できることがありましたらお手伝いしますので、どうぞお声かけください。よろしくお願いたします。

○永井会長 ありがとうございます。

皆さん、支援をしていらっしゃる中で、日常的な実感としてそういう困り感を持っている人がいるよねということを経験しつつ、ただ、自立支援協議会の性質として、地域部会から上がってきた課題についてプロジェクト化するという流れを持っているので、まずは一旦、地域部会のほうで引き受けていただいて、課題抽出を進めようという形になっています。今、協力してくださるということをお願いしたので、どうぞ、10区の地域部会の方々が協力して、よろしくお願いたします。

ほかにはいかがでしょうか。

○小谷副会長 今のことについてです。

今のようなことが本当に課題だと思うのですよ。ぜひ、地域課題として運営会議のほうに上げていただけたら、私達もこれから強度行動障がいとか重度の知的障がいの方たちは、地域で、特にこのコロナ禍で大変な状況にあるというのを去年から今年にかけて見させていただきました。ですから、そういう声が本当にたくさん欲しいのです。今お話しされたことは本当に課題なので、厚別区の地域課題として運営会議に上げていただけたら、ワーキングチームから、これらのプロジェクトチームとして行ってほしいと思います。ぜひよろしくお願いたします。

○永井会長 ありがとうございます。

コロナ禍で、地域課題の吸い上げの難しさも今はあるので、地域部会でどんどん声を上げていただくことが本当に大切かと思えます。

小谷委員、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○事務局（斉藤就労・相談支援担当係） 札幌市の斉藤です。

先ほど、身体・知的プロジェクトの中で、終了後の方向性についてのご説明をいただいたところですが、札幌市としましては、地域生活支援拠点の検証、検討の場とか、その課題についての報告の場を設けていきたいと考えております。どういったメンバーで、どういった方向性でやるかということを検討しているところですが、また皆さんに、次の全体会か、その次になるか分かりませんが、ご報告したいと思えます。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。これもありがたいというか、うれしい報告かと思うのですが、せっかくプロジェクトの中で一生懸命考えて、地域生活支援拠点についてのアイデアを練っていただいたかと思うので、引き続き自立支援協議会として経過を見守っていくということかと思えます。よろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

実は、時間はまだ結構あるので、特にこのプロジェクトに対する質問ということだけでなく、これまでの部会も含めて自立支援協議会の全体会として共有しておいたほうがいいみたいなこともありましたら、ご意見や情報提供を今いただいてもいいと思うのですが、いかがでしょうか。

○小熊委員 豊平区の小熊です。

先ほど大館委員からもお話があった、運営会議で今後取り組んでほしいということで、各地域部会からまずは上げてほしいというお話だったのですけれども、早速、重度訪問介護の利用者さんのことで、豊平区とほかの区でも困り事が起きて始めています。札幌市が昨年の4月から非定型の申請を開始しまして、そこで実際に申請された利用者さんが不足しているという困っている時間数が思うように伸びない。

そこで、札幌市と今後いろいろな場面で協議していこうと思うのですが、特に就寝時の見守りについては、稼動していない部分は認めないという札幌市のお答えがあるのです。重度訪問介護の成り立ちや見守りの重要性というのは、重度の身体障がいの方とか重訪を使っている方々の間では、かなり大きい問題なので、早速、今月の17日には豊平区でそのことを議題として取り上げて、実際に事例として困っている方がどれだけいるのか、その内容について議論を重ねていきたいと考えています。

そこで、ぜひ他区の方々のほうでも、そういった声を聞いたら事例として共有して行って、きっちりとみんなで納得できるような議論につなげていければと思えますので、その一点、お願いいたします。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

貴重な情報提供かと思うのですが、今の点に関して、何か補足とか情報提供がありましたら、ほかの区の方などからもお願いいたします。

○小谷副会長 今、小熊委員が話したことは、私たち障がい当事者の中でもすごく重い課題だと思っています。

重度訪問介護の見守りがどういう形になるのかということですが、特に夜間に対して定期的な2時間置きの体位交換であったり、不定期な排せつ介助であったり、飲水であったり、常にびっちりついてはいるのですが、いつでも動ける体制というのが見守りだと私は思っています。

これも小熊委員が先ほど話していたので、ぜひ豊平区地域部会から課題として運営会議のほうに上げていただけたら、自立支援協議会の中でも話し合いができていくと思うので、ぜひ課題として上げてください。お願いいたします。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。

今月の6月25日に相談支援部会の定例会がありまして、その前での情報共有は本来は避けたほうがいいのかもかもしれないのですが、私が属しているエリア会議の中でも、今の重度の方の非定型の支給決定についてということが少し課題に挙がっておりました。

なので、今後、相談支援部会の中で情報を共有して、それぞれの相談事業所での関わりや、実際に困っている方がどのぐらいいるのかというところを全体的に把握したいと思っております。

以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

ほかにはありますか。

○小熊委員 もう一つよろしいでしょうか。

これも、今月の豊平区地域部会で議題として上げていることなのですが、今、国が進めているコロナワクチンの接種について、優先順位を決めて順次行っているのですが、割と小規模の事業所は、職員もそうですけれども、利用者さんの接種がいつなのかというところ、例えば身体障がいの重い方とかだけだと優先順位に入っていないとか、いろいろな不安を抱えていらっしゃる中で、豊平区としてはそういった事業所の声を集めて札幌市にただ要望するのではなくて、提案型で、例えば準備は豊平区地域部会がやるので、会場については豊平区民センターを提供していただけないとか、そういったことを詰めていきたいということで、今月から議論は始まります。もし皆さんの区でもそのような取組がありましたら教えていただければと思います。

以上です。

○永井会長 ワクチン接種のことは、具体的にどこからということ、受ける側が一番実感することだと思うのですが、行政で大まかめと進めようとする進みにくいところ

もあると思います。

今の件はいかがでしょうか。先ほど、子ども部会のほうでもワクチン接種に関することは事業所からご質問が寄せられていると北川委員がおっしゃっていました。

○北川委員 そうですね。厚労省のほうからは、障がいのある方とか支援する方に優先接種ということだと思っておりますけれども、近隣の市町村でも障がいのある方に優先接種している市町村があると聞きましたが、札幌市は、大きい都市なので、まずは高齢者がということで、なかなか難しい状況の中、幼稚園の先生とか保育園の先生、学校の先生、順番にワクチン接種がなされているということで、障がいのある方だと、なかなかマスクをつけられなかったり、今回の変異ウイルスが物すごい若い人とか子どもへの感染も強いですが、もし陽性になったときに、人工呼吸器をなかなかつけられなかったりするので、自立支援協議会としても、少しでも早く優先接種ができるように、皆さんがお待ちなのは分かるのですが、そういうことがあればと思っておりますし、子ども部会に所属する事業所のほうからもそういう声が出ておりました。

○永井会長 ありがとうございます。

もしかすると、行政のサイドでコロナワクチンを打つことを勧める方々は気がついていないかもしれないから、声を上げることに意義がある点のように思います。

ほかにいかがでしょうか。

先ほどの重度訪問介護のことも、制度的なことは、すぐに要望が通ったりということが難しい側面もちろんあると思うのですが、困っていることについて表明しないと、そこに困り事があるということにも気づきにくいことでもありますね。日常生活を送っている中で体験している困り事だから、体験している人からの声が上がることが大事かと思うので、もし各区で同じような課題があれば共有して、また自立支援協議会として何かアプローチができないかを考えることができればと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○前田委員 西区の前田です。

今、コロナワクチンの話題が出ていたと思うのですが、他法人との連携で、例えば医療法人と連携して施設に入所の方のワクチンを進めていこうと考えているところがあつたりということはあるのでしょうか。

○永井会長 医療機関はワクチンを早く打てますからね。ただ、打ち手がいないことが問題とも聞いています。だから、ワクチン接種においては医療者を確保するということが大きな課題だと思うのですが、今の前田委員からの質問に対して情報をお持ちの方はいらっしゃるでしょうか。

同一法人に医療機関があるところだと事業所でも比較的早く進むのでしょうか。

○前田委員 最近、僕がただ思いついただけなのですが、うちの三和荘には大きな体育館があつたり、ワクチンを冷やせるだけのフリーザーもあります。あとは、お医者さんであつたり、うちの施設にも看護師さんは1人いるのですが、やっぱり1人では

賄い切れないので、そのお医者さんなり、周りの施設にも看護師さんはいると思うので、協働すれば何とかできるのではないかと思います。職域接種の条件としては、今、1,000人と出ていますけれども、そういうものを利用して何かできないかと思っています。

ただ、僕もあまり知識と情報がないので、本当に実行するには、お医者さんが何人いたらいいいのか、看護師さんが何人いたらいのか、どこからか情報が出ればなと思っています。

何かあれば教えていただければと思います。この場でなくてもいいのですけれども、情報共有の場があってもいいのかなと思います。

○永井会長 ありがとうございます。

すごくなるほどと思いました。小規模な事業所でも複数集まって特定の場所に集めて、比較的大規模にして接種ができればという感じは確かにありますね。

ただ、これを障がい福祉課の方に聞いても情報は特がないですね。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 障がい福祉課の渡辺です。

今、ワクチンに関しては、障がい福祉課のほうとして何かお伝えできることはない状況です。

○永井会長 今、ワクチン接種を担当している課の方々はとてもお忙しいでしょうか。質問に応じていただけるような状況ではないですね。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） ものすごく忙しいという話は聞こえてはきますけれども、実際にどれくらいなのか、私も分かりません。

○永井会長 それこそ、今みたいなアイデアが歓迎される可能性もなくはないと思ったのです。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） そうですね。会場の関係でご協力いただけたところがあるというお話なのかと思いますので、参考になるお話ということで、一旦、受け止めたいと思います。

○永井会長 ありがとうございます。

すぐには動かないかもしれないですが、きっかけとなって、そういうアイデアもあったのかということで連携を進められたりすると、とてもいいと思いました。確かに、各事業所にも看護師さんがいらっしゃいます。ただ、まとまらないとワクチンを打てないという状況もありますね。

そういうこともあるので、ぜひ自立支援協議会のほうでワクチンについても情報交換をして、札幌市に、要望ではなくて、情報提供ということでお伝えできるようなことがあれば、今後、何かのプラスにつながっていくかと思っていますので、よろしくお願ひします。

そこは早くということですね。1か月、2か月みたいなことでワクチンについての情報集約は進めて動くといいのかもしれないと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

特になければ、一旦、プロジェクトチームからの報告につきましても終了いたします。

プロジェクトチームは、一時、すごくたくさんの方があった印象ですが、有期ということで、今は活動を終えたものが多くなっていて、今日お話にも出ましたような新しい課題について、また地域部会から吸い上げて、新たなプロジェクトなどが今後検討されていく状況かと思えます。よろしくお願いたします。

それでは、次の議題に移ります。

自立支援協議会の委員の任期についてです。

昨年12月に札幌市自立支援協議会設置要綱の一部改正がありまして、これまで明記されていなかった委員の任期が明記されました。その改正内容と今後の運用について、障がい福祉課より説明をお願いたします。

○事務局（斉藤就労・相談支援係） 札幌市障がい福祉課の斉藤です。

皆さんの任期についてお伝えしたいと思います。

資料としましては、皆さんに事前にお配りしている附属機関設置及び運営に関する要綱と年間活動報告書に自立支援協議会の設置要綱について載せておりますので、ご覧いただければと思います。

これまで、6年を超える委員の方については、各部会でほかに適切な方がいらっしゃらないということを理由として、附属機関設置要綱の第5条第2項を適用して任期を延長してまいりました。

昨年の自立支援協議会の会長の改選の議論の中で、委員の皆さんから6年の任期を自立支援協議会設置要綱のほうにも明記すべきというご意見がありまして、昨年12月に札幌市自立支援協議会の設置要綱を改正しております。

この任期については、今、表示しております附属機関設置要綱のほうにもともと記載があったもので、6年ということをお互いに明記をした形になっております。

こういった任期の決めはあるのですが、一方で、各地域部会とか各専門部会におきまして、部会長の手がなかなか見つからないということもあるかと考えております。

この中で、今年の3月の運営会議でもお話をしたところですが、なり手がなかなか見つからない場合については、運用上で柔軟に対応していきたいと考えておりますので、要綱の第5条第2項を適用させて、例外的に任期の延長については認める形で柔軟にやっていきたいと考えているところです。

ですので、皆様には、今回の改正を機に、任期が6年あるということをお改め把握していただきまして、こちらの中で後任の方を育てていくという意識をお持ちになって活動を展開していただきたいと考えております。

もう1点、追加のお願がございまして、ご後任の方を探す中で、札幌市役所の庁内で女性の登用率についてかなり強い要請を受けることがあります。これは、第4次男女共同参画さっぽろプランのほうに、附属機関の中で女性の登用率を増やしていきたいという記載がありまして、その辺りはかなり強い要請を受けることがありますので、これはもし可能であればというニュアンスにはなるのですが、女性の登用についても検討いただく

ようにしていただければと考えております。

こちらからのご説明は以上です。

○永井会長 ありがとうございます。

この件につきましては、昨年、運営会議のほうでも何度も議論をいたしまして、札幌市自立支援協議会という組織が公的な位置づけを持ちながらも、皆様のボランティア的な姿勢に支えられて成り立っているところがあって、世代交代が必ずしもスムーズにいかないところもあると思うのですけれども、なるべく多くの方々に自立支援協議会に関わっていただくということを念頭に、必ずしも6年を頑なに守るということではないのですけれども、人の入れ替わりを少し重視する意味で、6年ということ意識する意味で明記したものです。

ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 これは余計なことですが、女性の登用の件に関しては、本当に政策的なことだから仕方がないと思いつつ、女性になってほしいのですよと言われて頼まれるのは、あまりいい気持ちではないですね。それはちょっと言っておきたいと思います。特に、こんな時代ですから男女ということで考えるのもどうかという感じですが、皆さんもご配慮いただければと思います。

この件については、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○永井会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、まちづくりサポーターの活動報告をお願いいたします。

まちづくりサポーターについては、既にご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、様々な障がいのある方が集まって3年の任期の中でテーマを決めて意見交換や支援の活動報告を行っていて、この自立支援協議会にもその成果が上がるたびに活動報告をいただいていたと思います。今回は、第7期の3年間の報告をこのようにまとめていただいております。

通常でしたら代表の方に報告いただくのですが、代表を務めていらした鈴木さんがちょうど退任されたタイミングで、後任が決まっておられませんので、今日は、まちづくりサポーターの事務局である障がい福祉課事業計画担当係よりご説明いただきます。よろしくお願いたします。

○事務局(干場事業計画担当係長) 皆様、お疲れさまでございます。

事業計画担当係長の干場と申します。よろしくお願いたします。

ただいま、永井会長からご説明いただきましたとおり、まちづくりサポーターの第7期の鈴木代表に代わりましてご報告させていただきます。

お手元の報告書をご覧になりながらお聞きいただければと思います。

障がい者によるまちづくりサポーター制度は平成15年度から開始した制度でございます。

して、サポーターの皆様の様々な活動を通じて、障がいのある方のご意見を市政運営の参考とさせていただきます。

本日ご報告する第7期サポーターの任期は平成30年6月から今年5月までの3年間でしたが、1年目は北海道胆振東部地震の発生、任期後半は新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、制約の多い状況下での活動となりました。そうした中においても、サポーターの方は、心のバリアフリーを広げようということをメインテーマとして、三つのサブテーマにも精力的に取り組んでいただきました。

それでは、テーマごとの活動について簡単にお話しさせていただきます。

報告書の10ページをご覧ください。

メインテーマである心のバリアフリーを広げようについての活動内容が記載されております。

心のバリアフリーを広げるためには、目に見えない障がい特性を理解することが大切であるとして、まずはサポーターご自身のそれぞれの障がい特性や困り事、配慮されるとうれしいことなどについて意見交換をすることから始めました。

その後、地域や札幌市が主催するイベントなどにおいて、サポーターご自身が自ら情報を発信していくという取組を当初考えておりましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響から、そうした発表の機会を得ることができませんでした。

報告書には、サポーターの話合いの内容を集約し、記載しております。

サブテーマについては、報告書の25ページからになります。

一つ目のヘルプマークを知ってもらおうにつきましては、実際にヘルプマークを使用する中で感じるなどについて意見交換をし、実際にヘルプマークの普及活動を行うサポーターからの情報提供なども踏まえ、今後の普及啓発についての意見をまとめました。

サブテーマの二つ目は、災害に備えようです。

報告書は29ページからになります。

北海道胆振東部地震で感じた不安や困り事、災害時の課題について意見交換をしまして、避難所を含めた災害発生時の札幌市や地域の取組について学びました。

サブテーマの三つ目は、就労支援について考えようです。

報告書は44ページからになります。

障がいの特性は人それぞれ違う中で、仕事を見つけることや就労中の困難さ、うれしかった配慮や支援などについて意見を出していただきました。

お配りしたこの報告書には、サポーターの方の生の声がたくさん詰まっています。自立支援協議会における皆様の活動におかれまして、ご活用いただけますと幸いです。

以上、簡単ではございますが、第7期まちづくりサポーターの活動報告とさせていただきます。

○永井会長 ありがとうございます。

皆様からご意見、ご質問等がありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 ちょうど平成30年からの3年間の活動ということで、サブテーマに選ばれているものは、時宜にかなったものであったのだと改めて思いましたし、本当にここ数年は災害やらコロナやら大変なことも多いなど改めて感じられるところですが、当事者の方の言葉がこのように載っているのは、いろいろな面で参考になるかと思えます。

せっかくご報告いただいているので、何らかの形でご活用いただきたいと思えます。移動に関するプロジェクトチームでは、まちづくりサポーターの報告書の移動に関わるものも参考にしながら進めた経緯もありました。ぜひ今後も自立支援協議会内の活動の参考にさせていただければと思えます。

それでは、続きまして、障がい福祉計画(第6期)・障がい児福祉計画(第2期)の策定について、報告をお願いいたします。

○事務局(干場事業計画担当係長) 引き続き、干場からご報告させていただきます。

障がい福祉計画と障がい児福祉計画、ここからは便宜上、この二つの計画を福祉計画と呼ばせていただきますが、福祉計画は今年3月に策定、公表しております。

自立支援協議会委員の皆様には、昨年12月の書面会議において、パブリックコメントの実施前にほぼ最終段階の計画案についてご報告させていただいておりますため、本日、計画の中身自体で新たにご説明するところはありませんが、パブリックコメントの実施結果や、このたびの福祉計画の改定で新たに盛り込んだ内容について一部触れさせていただきます。

お手元の計画本書の96ページをご覧ください。

初めにパブリックコメントですが、昨年12月21日から今年1月25日まで35日間実施いたしまして、関係団体を含む17名の方から60件のご意見をお寄せいただきました。

紙面の制約上、計画書には一部の掲載になりましたが、章ごとにご意見とそれに対する札幌市の考え方を掲載しております。

また、計画書の文面に反映したご意見は、本書の99ページに修正前、修正後として掲載しております。

本日は、お時間の関係上、ひとつひとつの説明は省略させていただきますが、計画案の内容を大きく変えるものはございませんでした。

頂戴した様々なご意見やご要望はしっかりと受け止めまして、先の話にはなりますが、3年後、2023年の障がい者プランの全面改定の際に生かしていまいたいと考えております。

続きまして、今回の改定で新たに盛り込んだ内容についてご説明いたします。

本書の76ページをご覧ください。

(4) 成年後見制度利用支援事業についてでございます。

成年後見制度利用支援事業は、地域生活支援事業において、市町村が必ず行う事業に位置づけられております。

これまでの福祉計画では、ご本人や親族による申立てが期待できない場合に、市長が代わって行う申立て、市長申立てとありますが、この市長申立てのみを記載しておりました。

このたびの改定では、本書の説明部分の下から3行目になりますが、経済的な理由で成年後見制度が利用できないことがないように、本人・親族申立て事案においても、市長申立て事案と同様に助成を実施することが明記されております。

最後になりますが、自立支援協議会委員の皆様には、実態調査や計画内容の検討、また、障がい者施策推進審議会計画検討部会の委員としてご参加いただくなど、計画策定の全ての過程において多大なるお力添えをいただきました。

この場をお借りしまして、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

引き続き皆様には、計画の進捗をご報告させていただきますとともに、3年後の障がい者プランの全面改定に向けては、今年度より動き出しが始まりますので、今後とも忌憚のないご意見を賜りたく、どうぞよろしくお願いたします。

簡単ではございますが、私からのご報告は以上でございます。

○永井会長 ありがとうございます。

さっぽろ障がい者プランに関して、意見を述べるということが自立支援協議会の大きな役割として位置づいていて、その都度、計画策定に当たって、このように報告をいただき、また、途中経過についても報告をいただいているところです。

皆様からご質問、ご意見等がありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 先ほど事務局からもご説明があったとおり、ほぼ出来上がったものについてパブリックコメントを出す前に見せていただいて、意見を募っていただいているということもありますので、今日改めてというご質問はないかと思いますが、今後の進捗状況の報告などをいただきましたときに、またご意見等をいただければと思います。ありがとうございました。

それでは、続きまして、札幌市自閉症・発達障害支援センターおがるさんから情報提供をお願いたします。

○大館委員 皆さん、こんばんは。

札幌市自閉症・発達障害支援センターおがるの大館と申します。いつもお世話になっております。

毎年、このように私たちのセンターの取組の報告をさせていただく時間をいただいております。ありがとうございます。

お手元にある資料に沿ってご説明を差し上げたいと思います。

昨年度の活動報告と今年度の方針についてご説明いたします。

今年度、直接支援は、発達障がいのあるご本人とご家族の方への面談としては、感染症

の影響^{えいきょう}があつて、例年^{れいねん}の9割^{わりていど}程度^{ちゆうど}となっています。というのも、私たちのセンター^{わたしたち}が入所^{にゆうしょ}施設の2階^{にせつ}にありますので、建物^かへの立入り^{たちい}を制限^{せいげん}していた時期^{じき}もあるということで、例年^{れいねん}よりはやや少ない結果^{すく}になったと思^{おも}っています。

間接支援^{かんせつしえん}としては、発達障^{はつたつしょう}がいのある方^{かた}を支援^{しえん}している方々^{かたがた}への支援^{しえん}を一生懸命^{いっしょうけんめい}やっております。一つが機関支援^{ひと きかんしえん}とって、各事業所^{かくじぎょうしょ}さんに訪問^{ほうもん}させていただいて、一緒^{いっしょ}によりよい支援^{しえん}を考^{かんが}えていくということをしてしています。昨年度^{さくねんど}からは、オンラインでの機関支援^{きかんしえん}も行って^{おこな}おまして、Z o o mなどを活用^{かつよう}して機関支援^{きかんしえん}を行^{おこな}っています。

やはり、事業所^{じぎょうしょ}によっては、設備^{せつび}がないので難^{むずか}しいという方もいらっしゃるのですけれども、昨年^{さくねん}から始^{はじ}めていますが、対^{たい}応^{おう}できる事業所^{じぎょうしょ}さんが徐々^{じょじょ}に増^ふえてきたかなと思^{おも}っています。

研修^{けんしゅう}についても、オンラインでの対^{たい}応^{おう}を去年^{きょねん}から行^{おこな}っています。主催^{しゆさい}研修^{けんしゅう}もそうですし、講師^{こうし}派遣^{はけん}とって、事業所^{じぎょうしょ}さんとか研修会^{けんしゅうかい}に呼^よばれて行^いってお話^{はな}するというのも、オンラインで対^{たい}応^{おう}しています。

また、オンデマンド形式^{けいしき}と言^いいますが、ユーチューブに動画^{どうが}をアッ^どして、URL^うをご案内^{あんない}して見^みていただくという形^{かたち}の動画配^{どうがはいしん}信^{おこな}も行^{おこな}っています。時間^{じかん}や場所^{ばしょ}を選^{えら}ばず^{べんきよう}に勉強^{べんきよう}できるということ、こちら^{かた}もたくさん^みの方^{かた}に見^みていただいております。

普及啓^{ふきき}発^{はつ}についてですけれども、発達障^{はつたつしょう}がいについての正^{ただ}しい知^ち識^{しき}や関^かわり方^{かた}を広^{ひろ}めるということで、今年度^{こんねんど}から、ここ^こに書^かかれてい^いるユーチューブ^{おこな}です。リソ^りス^そス^すセンターとしてのユーチューブ^{どうがはいしん}の動画配^{どうがはいしん}信^{つか}と、LINE^あを使^{つか}って、おが^おるリソ^りス^そス^すニ^にュ^にース^すとして札幌市^{さっぽろし}の発達障^{はつたつしょう}がいに関する情^{かん}報^{じょうほう}を配^{はいしん}信^{おこな}してあります。ユーチューブ^{こうかいせつてい}のほうは、公^{こう}開^{かい}設^{せつ}定^{てい}とな^なってありますので、どなた^みでも見^みるこ^こがで^できるよ^ようにな^なっています。また、公^{こう}開^{かい}設^{せつ}定^{てい}ですの^ので、札幌市^{さっぽろし}のガイ^そド^どライ^{ライ}ン^ンに沿^そって字^じ幕^{まく}をつ^つけるな^などして、ア^あク^くセ^せシ^シビ^ビリ^リティ^{ティ}ー^ーにも気^きをつ^つけて配^{はいしん}信^{おこな}を行^{おこな}っています。

LINE^あのほうは、登^{とう}録^{ろく}していただくと、社^{しゃ}会^{かい}資^し源^{げん}の情^{じょう}報^{ほう}や発^{はつたつしょう}達^{たつ}障^{しょう}がいの知^ち識^{しき}を検^{けん}索^{さく}できるよ^ようなシ^しス^すテ^てム^むもご^ござ^ざい^いますので、皆^{みな}さん、ぜ^ぜひ見^みていただ^だけ^ければな^なと思^{おも}います。

ユーチューブ^{きょう}は、今^{いま}日^{にち}の段^{だん}階^{かい}で登^{とう}録^{ろく}人^{にん}数^{すう}が300人^{にん}を超^こえているので、か^かな^なり^りの方^{かた}々^たに見^みていただ^だけ^けてい^いると思^{おも}っています。

2枚^{まい}目^めのほう^{ほう}に行^いきます。

発達障^{はつたつしょう}がいの支^し援^{えん}体^{たい}制^{せい}整^{せい}備^び事^じ業^{ぎょう}の参^{さん}画^{かく}として、家^か族^{ぞく}支^し援^{えん}に私^{わたし}たち^とも取^とり組^くんでお^おま^ます。

ペア^ぱレ^れン^んト^とメン^めン^んター^たという^{いう}のは、発^{はつたつしょう}達^{たつ}障^{しょう}がいのあ^あるお^お子^こさん^{さん}を^を育^{そだ}て^たこ^このあ^ある親^{おや}御^ごさん^{さん}が先^{せん}輩^{ばい}保^ほ護^ご者^{しゃ}として今^{いま}困^{こま}つて^てい^いる親^{おや}御^ごさん^{さん}た^たち^ちのお^お話^{はな}を^を聞^きいた^たり、共^き感^{かん}し^した^たりす^するとい^いう事^じ業^{ぎょう}がご^ござ^ざい^いますけ^けれ^れども、こ^こち^ちら^らの事^じ務^む局^{きょく}として参^{さん}画^{かく}して^{して}お^おま^ます。

こ^こち^ちら^らは、去^{きょ}年^{ねん}は感^{かん}染^{せん}症^{しやう}の影^{えい}響^{きやう}でか^かな^なり^りご^ご依^い頼^{らい}が少^{すく}な^ないとい^いう状^{じやう}況^{きやう}だ^だつた^たので^{ので}すけ^けれ^れども、感^{かん}染^{せん}対^{たい}策^{さく}を^をし^しな^なが^がら実^{じつ}施^ししたり、ご^ご依^い頼^{らい}はな^なか^かつた^たので^{ので}すけ^けれ^れども、Z o o mでの^{での}対^{たい}応^{おう}も^もで^できるよ^ように準^{じゆん}備^びは^はして^{して}お^おま^ますので、も^もし事^じ業^{ぎょう}所^{しょ}の皆^{みな}さん^{さん}で、ペ^ぱア^あレ^れン^んト^とメ^めー^えタ

一さんと話したい親御さんがいるわというところがありましたら、おがるのほうにご相談いただければと思います。

あとは、ちくたくと協働してペアレントプログラムの普及実施も行っております。

また、発達障がい者地域支援マネージャーというものが平成29年からおがるに配置されています。昨年度から2名体制で行っています。特に困難なケースですね、強度行動障がいとか触法行為、あとは、ひきこもりという相談が近年増えてきているかと思えます。

当事者やご家族からの直接のご相談は受けていないのですけれども、機関の方からのご依頼に応じてマネージャーが行って、一緒に支援を考えるとということを行っております。

また、昨年度から、発達障がい者支援地域協議会というものが始まっております。札幌市における発達障がいのある方への支援体制について情報を共有して、関連機関の方々と連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制整備について協議することを目的としております。

昨年度は、第1回の全体会とか部会は書面会議が多かったのですが、第2回くらいからはプロジェクトチームとか部会とか、全体会もZoomなどを活用して皆さんと意見を交換しながら、今、深めていっているところです。

今年度、全体会は既に第1回目が行われていて、動き始めているという状況です。

おがるからの報告は以上となります。

○永井会長 ありがとうございます。

やはり、ユーチューブチャンネルは情報伝達の方法として効果があるということですね。皆様からご質問、ご意見等がありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 先ほど、強度行動障がいのことについても、おがるさんのご協力を申し出ていただいておりますけれども、こちらの札幌市発達障がい者支援地域協議会とも連携ができればいいなと思っております。というのも、私はそちらの会長をやっておりますので、どうぞ引き続き自立支援協議会とも協力させていただければと思います。

いかがでしょうか。

○重泉委員 質問です。

おがるさんの事業内容は分かったのですが、おがるさんは発達障がい者支援地域協議会をやっていましたね。その報告はないのですか。

○大館委員 昔、連絡協議会と言っていたものが、今年度から発達障がい者支援地域協議会に移行した形です。

○重泉委員 その活動は、僕は見ていなくて申し訳ないのですが、それはどこでしたか。

それなのですね。失礼しました。

○永井会長 画面が小さいので、申し訳ないです。

○重泉委員 ちょっと見えなかったです。すみません。

○永井会長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○永井会長 それでは、今日の協議会全体を通して何かございましたら、どうぞお願いいたします。

○重泉委員 先ほど、ワクチンを早くしてほしいとか、強度行動障がいの方は大変だという話があったのですが、そのことについて、今日ではなくていいのですけれども、全体にというか、札幌市に言ってほしいこともありますし、何らかの回答はいただきたいのです。言ったままということではなくて、どういうことが話されたのかということはお答えいただければと思いました。

○永井会長 それは、自立支援協議会のほうで意見集約をした後というより、今日の全体会で話されたことについて何らかの回答をいただきたいということですか。

○重泉委員 そうですね。そういう声が上がらないと全体会をやっている意味がないですし、公式の会議なので、何らかの回答はいただいたほうが良いと思います。

○永井会長 その点はいかがでしょう。

ある意味、公式な質問に対する公式回答ということではないと思うのですが、それこそ、情報提供ということかと思いますが、その限りで札幌市のほうでは可能でしょうか。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 障がい福祉課の渡辺です。

今日、自立支援協議会であったお話については、ワクチン担当の所管課には話として伝えようと思っておりますので、それに対してワクチン部からどういう回答があるかどうか、今は分からないのですが、話としては伝えたいと思います。

○永井会長 伝えた結果、回答があれば回答をします。今はちょっと答えられないというのが回答であれば、それも回答だと思っておりますけれども、それをご報告いただけるということでいいですね。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） そうですね。ワクチン部に伝えた結果どうなったかということ、どこかのタイミングでお伝えしたいと思います。

○永井会長 重泉委員、今の対応はよろしいでしょうか。ありがとうございます。

○北川委員 自立支援協議会の目的といいますか、障がいのある方が安心して地域で暮らせる地域づくりというところでは、ワクチンの問題は大きいと思います。本当に急変してしまったりもしますし、ワクチンを打っていたらということもありますので、のんびりと構えていられない問題なのではないかとも思っています。

私たちは民間なので、その思いを伝えることしかできないのですが、障がい福祉課というのは、札幌市の組織の中で障がいのある人の暮らしと命を守る課だと思うので、ワクチン部としてはそこはなかなか優先的に考えられないと思うのですが、障がい福祉課が一丸となってその辺はお伝えしていただけたらうれしく思います。よろしくお願いたします。

○永井会長 ありがとうございます。

本当にそう思いますが、ワクチン課のほうで、そういうアイデアがあるのだったらという動きがあるときは、障がい福祉課が窓口となって自立支援協議会の各委員の方々に協力を仰ぐみたいなのも想定されるのでしょうか。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） どういう形になるかは分からないですけれども、場合によっては、そういう形もあるかと思います。

○永井会長 そういふことと言つと、皆さん協力的でありますので、そのことを含めて伝えていただきたいということかと思つます。

○尾形委員 さっぽろ香雪病院の尾形と申します。

先ほど、部会の報告の中で質問すればよかつたのですが、身体障がい者と知的障がい者の地域生活移行推進プロジェクトチームの報告の中で、地域生活支援拠点のについては、81ページに精神障がい者の地域包括ケアシステムの協議の場に継続していくとあります。こちらは、昨年度設置されました精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの協議の場という認識でよろしかつたでしょうか。

名称のほうは、「精神障がい者の」となつていたので、ここは「精神障がいにも対応した」が正確なのではないかと思つているのと、私の印象では、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの協議の場と地域生活支援拠点の整備のことは、国の定義も含めて異なつている認識を持つていますが、札幌市としてはこの二つを一緒に進めていくようなお考えということによろしかつたでしょうか。

○永井会長 ありがとうございます。

多分、81ページの書き方がよくなかつたと思つますが、札幌市のほうからご説明いただけますか。あるいは、私から説明しますか。

○事務局（斉藤就労・相談支援係） 一旦、永井会長からよろしいでしょうか。

○永井会長 81ページは、二つのプロジェクトチームが並んで書かれてしまつたので、二つのプロジェクトチームについて、地域包括ケアシステムの協議の場において課題検討、継続と見えてしまうのですが、地域生活移行推進プロジェクトチーム、精神障がい者の分だけが地域包括ケアシステムの協議の場のほうに引き継がれる予定ですので、その点で言つと、地域生活拠点の議論は地域包括ケアシステムの協議の場には引き継がないものです。名前は本当にそのとおり、包括のことを指しているということでは間違いないと思つます。

○尾形委員 そうすると、地域生活支援拠点の協議はどちらかに引き継がれるのですね。先ほども少し説明がりましたが、これはまた別のチームで協議していくという認識でよろしいでしょうか。

○永井会長 今ところ、引継ぎ先が定まつていないのですが、自立支援協議会で継続的に検討するという性格のものなので、運営会議で引継ぎ先を検討して、恐らく相談支援部会が大きく関わるのかなと考へているのですが、別の場への引継ぎになるかと思つます。

○尾形委員 ありがとうございます。

○永井会長 ほかにいかがでしょうか。

今、尾形委員に報告書の内容に戻していただいていたで大変ありがたかったです。

というのは、私はうっかりして、最終的にこの報告書でよろしいかという確認と、成果を自立支援協議会から市にお渡しするという場面を飛ばしてしまいました。申し訳ありません。

ですので、ちょっと戻りまして、今日ご報告いただきました自立支援協議会年間活動報告書について、全ての内容をお認めいただけますでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○永井会長 ありがとうございます。

それでは、これは自立支援協議会の成果として札幌市にお渡しする形になっておりますので、報告書をお渡しするという手順をもってそれに代えたいのですが、私が市役所内におりませんので、今日は、代わりに斉藤さんからお願いしたいと思っております。

では、引き続き、札幌市のほうでもご検討等をよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

以上をもちまして本日予定していた協議に関しては終了なのですが、冒頭に申しましたように、私が今日で最後ということで、学識経験者の後任委員として北海道医療大学の近藤先生が途中から入られていますので、近藤先生、急に申し訳ないのですが、一言、ご挨拶いただければと思います。

○近藤オブザーバー 皆さん、こんばんは。

途中からの参加になってしまいまして、申し訳ありませんでした。

永井先生の後任ということで仰せつかりました北海道医療大学の近藤と申します。引き続き、どうぞよろしく願いできればと思います。

○永井会長 ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

皆さん、長い時間、ありがとうございました。

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) 永井会長、ありがとうございました。

また、委員の皆様、長時間ご審議をいただき、ありがとうございました。

先ほどお話がありましたように、永井会長におかれましては、本日の会議をもちまして退任となります。自立支援協議会の発展にご尽力いただき、改めてお礼申し上げます。

加藤様も、本日をもってご退任ということになりますので、改めてお礼申し上げます。

最後に、永井会長より、一言、ご挨拶をいただきたいと思っております。

○永井会長 私は、7年目という感じで、北星学園大学に來まして8年になろうとしているので、来てすぐに札幌市自立支援協議会の委員と会長という形でお声がけをいただきまして、札幌市の障がい福祉に関してすごく学ばせていただく機会となっていて、感謝しております。

本当に皆様は活動に熱心で、今日の全体会もそうですけれども、札幌市の障がいのある

かた せいかつ
方の生活をよくするという^{いちがん}ことについて、一丸^ととなって^く取り組んでいる^{かい}会が札幌市自立支援
協議会^{きょうぎかい}かと思^{おも}います。これからますます自立支援協議会^{じりつしえんきょうぎかい}の発展^{はってん}をお祈^{いの}りしますとともに、
先^{さき}ほどの^{はつたつしえんきょうぎかい}発達支援協議会もそう^{わたし}ですけれども、私^{わたし}も^ひ引き続き^{つづ}札幌市^{さっぽろし}の障^{しょう}がい福祉^{ふくし}の向上^{こうじょう}
にか^かかわる^{しごと}ような^{おも}仕事^{おも}もしてまいりたいと思^{おも}っておりますので、今後^{こんご}とも、どうぞよろしく
お願^{ねが}いいたします。

ほんとう なが あいだ
本当に^{ほんとう}長い^{なが}間^{あいだ}、どうもありがとうございました。

○事務局^{じむきょく}（渡辺就^{わたなべしゅう}労^{らう}・相談支援^{そうだんしえん}担当^{たんとう}係^{かり}長^{ちやう}） ありがとうございます。

3. 閉 会

○事務局^{じむきょく}（渡辺就^{わたなべしゅう}労^{らう}・相談支援^{そうだんしえん}担当^{たんとう}係^{かり}長^{ちやう}） それでは、以上^{いじょう}をもちまして、第^{だい}36回^{かい}自立
支援協議会^{しえんきょうぎかい}を終^{しゅうりよう}了^{りよう}いたします。

ほんじつ
本日は、どうもありがとうございました。

い じょう
以 上